

令和4年度第5回小牧市こども・子育て会議 会議録

日時	令和5年3月20日(月)午後2時30分	
場所	小牧市役所東庁舎5階 大会議室	
学識経験者	兵庫教育大学 小学校教員養成特別コース 准教授	鈴木 正敏
	保育士経験者(元指導保育士)	長江 美津子
各種団体関係者	小牧市教育委員会 教育委員	伊藤 和子
	小牧市区長会 代表	大堀 誠三郎
	小牧市地区民生・児童委員連絡協議会 代表	田中 正造
	小牧市地区民生・児童委員連絡協議会 代表	野村 昌子
	小牧市社会福祉協議会 代表	山田 好広
	保育園長会 代表(公立園)	小川 亜矢子
	保育園長会 代表(公立園以外)	長谷川 誓
	保育園保護者会 代表(公立園)	中村 里美
	保育園保護者会 代表(公立園以外)	井澤 明美
	小牧市私立幼稚園保護者会 代表	山本 奈美
	小牧市立第一幼稚園 代表	小川 由美子
	事業者 代表	岡田 和秀
	小牧市立学校地域コーディネーター 代表	佐橋 明味
	小牧市小中学校PTA連絡協議会 代表	酒井 宏一郎
	児童館父母会 代表	長谷川 真由
こまき市民活動ネットワーク 代表	鳥居 由香里	
公募委員		吉田 拓也
		日榮 順子
欠席委員	小牧市小中学校校長会 代表	中川 裕子
	小牧市青少年健全育成市民会議 代表	安藤 和憲
	小牧市母子保健推進協議会 代表	岩田 はるみ
	小牧市私立幼稚園連合協議会 代表	大橋 恭子
	勤労者 代表	河合 達夫

※傍聴者2名

1 あいさつ

【事務局】

皆様こんにちは。

本日はお忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。

ただいまから、令和4年度第5回小牧市こども・子育て会議を開催させていただきます。司会はこども政策課長の伊藤が務めさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

それでは資料の確認をさせていただきます。

次第、資料1「パブリックコメントの実施結果」、資料2-1「パブリックコメントに対する市の回答」、資料2-2「パブリックコメントに対する市の回答（前回の修正分）」となります。最後に資料3「第2期小牧市子ども・子育て支援事業計画」となります。不足等はよろしかったでしょうか。

なお、本会議は公開であり、本日の傍聴者は2名となっております。また、会議の定足数につきましては、小牧市こども・子育て会議設置要綱第4条第2項で、過半数13名の出席が必要とされておりますので、本日の会議が成立いたしますことをご報告させていただきます。

それではここで、こども未来部長の鍛冶屋よりご挨拶申し上げます。

【鍛冶屋部長】

本日は御多忙にもかかわらず、令和4年度第5回小牧市こども・子育て会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、皆様方にはそれぞれの立場から、日頃より格別のご支援ご協力をいただき、改めて厚くお礼を申し上げます。

本日は前回に引き続き第2期小牧市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについてを議題とし、3月1日から3月14日まで実施しましたパブリックコメントの結果についてご報告をさせていただきます。

また、先に実施したパブリックコメントに対する回答について、前回いただきましたご意見を受けての修正についてご説明をさせていただきたいと思っております。

限られた時間ではございますが、委員の皆様からご意見をいただきながら、次年度以降も引き続き充実した子育て支援策につなげられるよう取り組んでいきたいと考えております。

今回も忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

続きまして、鈴木会長より一言申し上げます。

【会長】

皆さんこんにちは。

年度末のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。休みと休みの中日になってしまいましたが、天気だけはいいので、ご勘弁いただけたらなと思っております。本日も忌憚のない意見をどうかよろしくお願いいたします。

【事務局】

それではここからの会議の進行につきましては、鈴木会長へお願いをさせていただきます。よろしくお願いいたします。

2 議題

【会長】

第2期小牧市子ども・子育て支援事業計画中間見直しについて、事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】

前回の会議において、第2期計画の中間見直しにおける一部修正についてご確認をいただいております。その内容について、3月1日から3月14日までパブリックコメントにより意見募集を行いましたので、ご報告させていただきます。

資料1をご覧ください。

先に実施しましたパブリックコメント同様、市役所はじめ、各支所、各児童館にも資料を設置し、実施をしたところ、1名の方から1件の意見提出がありました。

意見の詳細について、資料2-1をご覧ください。

「幼児教育・保育の無償化」の取組についての意見です。内容としては、「保育園無償化に伴って、入所選考基準等に対する要望」となっております。

0～2歳保育園無償化について、有難いお話ではありますが、現時点でも希望する保育園に入れず育休復帰することが出来なくなったり、小規模保育園などに駆け込みで入園できる所を探したりで大変な方が多いという話を聞き不安の多い中、今回の無償化に伴って、市外からの転入者も今後増えるとなると、希望する保育園の入所が更に困難になるのではとますます不安が募っております。特に小牧駅周辺の中心部は顕著になってくるのではないかと感じています。そのため、2点要望させていただきます。1点目は、入所選考にあたっては、無償化決定以前より小牧市に住所を有している人を優先していただきたい。2点目は、地域型保育施設の新設よりも、既存保育園の0～2歳児クラスの定員を増やしていただきたいとのことです。理由としては、地域型保育施設はどうしても認可保育園に比べて施設環境からして劣ってしまう部分があり、認可保育園を希望する方は多いと思う。元々小牧市の住みやすさに大変魅力を感じて定住を決めた市民のひとり。子育て支援の様々な施策には大変感謝しておりますが、その反面、以前よりも窮屈に感じるようになってきたのも事実。小牧市民に対してもう少し細やかにご配慮頂けると有難いなと思います。というご意見をいただきました。

それに対する市の考え方、回答になりますけれども、1点目について、認可保育施設は、小牧市に居住し住民登録をしている就学前児童について、保護者が保育の要件に該当し保育を必要とする場合に利用可能な施設となります。利用開始時点で小牧市民であればご利用いただくことは可能であり、小牧市に転入された時期によって、利用調整の優先順位に差を設けることは難しいと考えておりますので、ご理解をいただきますようお願いいたします。

なお、入園審査にあたっては、家庭状況、保育を必要とする時間及び要件などを総合的に判断し、保育施設入所選考基準指数表の指数により、優先順位の高い児童から入園調整を行っております。

今後も引き続き、より多くの市民に「子育てしやすいまち」「子育て支援が充実しているまち」であることを実感いただけるよう努めてまいりますので、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

2点目について、保育園の定員については、国・県の基準で子ども1人当たりに必要な面積が定められており、現在の保育園の部屋数や面積では、今以上に定員を増やすことが難しい状況です。また、保育士の不足や保育室等の設備など、安全な保育環境を整える観点から、定員通りの入園が難しい状況も一部あることなどを踏まえ、現在、保育士の確保と老朽化した施設の建替えなどの検討を進めているところです。地域型保育施設の整備については、0歳児から2歳

児の保育料の無償化を実施することで、保育ニーズが掘り起こされ、待機児童の発生に繋がることが想定されることから、その受け皿を確保するため整備を進めるものです。

地域型保育施設は、保育園より少人数の単位で0歳児から2歳児の子どもの保育を行う施設で、家庭的な雰囲気の中での保育や多様なニーズに対するきめ細やかな対応ができるなどの特色があります。

保育の受け皿を確保することで、保護者の皆様にとって保育サービスの選択肢の幅が広がることを期待しておりますのでご理解いただきますようお願いいたします。としております。

また、前回会議でご提案した、1回目のパブリックコメント実施分の回答につきましては、いただいた意見を踏まえて、一部修正をさせていただきましたのであわせて報告をさせていただきます。

資料2-2をご覧ください。

赤字で下線が引いてある部分が、前回いただいた意見を踏まえ、修正した箇所となります。

具体的には、より現状が分かりやすいよう、現在実施している内容について、丁寧な回答を追記させていただいたり、表現について意見提出者が前向きに捉えられるような配慮をというご意見がありましたので、内容は変わりませんが、一部表現の変更を行っておりますので、今回の回答と合わせてご確認ください。

なお、この3月に実施した2回目のパブリックコメントと、前回実施した1回目のパブリックコメント。意見とその回答としては、資料2-1と資料2-2となりますが、この実施結果は、この会議でご承認いただいた後、4月初めに、広報こまきや市ホームページでお知らせをし、パブリックコメントを実施した市役所をはじめ各支所、児童館などで、閲覧できるように公表する予定であります。

また、お配りさせていただいております資料3につきましては、これまで、2回実施したパブリックパブリックコメントを経て、中間見直しを実施した計画となります。

パブリックコメントにおいては、計画内容の変更を伴う意見はございませんでしたので、これまでの会議でお示ししたとおりの内容で策定を進めていきたいと思っておりますので、合わせてご確認くださいませよう、よろしく申し上げます。

説明は以上となります。

【会長】

ご説明ありがとうございました。

それではただいまの事務局のご説明につきまして何かご意見とかご質問を承りたいと思っておりますがいかがでしょうか。

【吉田委員】

パブリックコメントについて、私の体験談から質問させていただきます。私は、生まれも育ちも東北の福島県で、12年前の3月11日の東日本大震災を福島で体験して、小牧市に移住してきました。12年前の入園の際に、第1希望から第6希望まで入園したい保育園を選ぶ手続きがあったことと、私、田舎者なので、愛知県に身寄りがあったわけでもなく、土地勘があったわけでもなかったんですが、移住先を選ぶ担当の方に、「名古屋と豊田と小牧、どこが一番田舎ですか」と聞いたら、「小牧市が田舎です」と聞いたので小牧市を選びました。

“待機児童”というのは都会だけの問題だと思って小牧市に移住してきたけれど、実際には希望する園には入園出来ず、大分待たされて、一応入園することが出来ました。希望する園ではなく、ちょっと不便な場所でしたので、「断ったらどうなるんですか」と聞くと、「それは待機児童にはカウントされない」

と説明されました。それで渋々そこに決めました。しかし、例えば、そこで断った場合、待機児童にはカウントもされず、仕事も出来ない、隠れ待機児童と呼ばれる状態になると思いますが、現在、発生していないのか、教えてください。

【事務局】

ご質問いただきました、隠れ待機児童についてですが、勤務先やお住まいなどの事情や、この園にどうしても入所したいというような、私的な理由により特定の保育所のみを希望している場合、また、育児休暇中において、申込みはするが、復職するつもりがないので、育児休暇期間を延ばすため、形式上申込みをするという方もいます。こういった方が、一般的には隠れ待機児童という表現で括られる方になります。

小牧市においては、先の議会でも答弁させていただきましたが、令和4年4月当初でいきますと、この隠れ待機児童は51名います。

これは年々、年度が進むにつれて、申込み者が累積されていきますので、だんだん増えていきますが、できるだけ入園の可能性を上げるために、窓口や電話等の対応では、可能な範囲で通勤に無理のない、あるいは送迎に無理のない範囲内の保育所を一つでも多く案内したり、保育園の特色等を窓口で丁寧に説明するなどの対応をしています。

【吉田委員】

パブリックコメントについて、もう1点質問です。私の子が1歳4か月で小牧市に来た際、当時の窓口担当の方に「皆さん、0歳から希望されているので、突然、1歳から来ても入れる保育所なんかあるわけないでしょ」と鼻であしらわれました。私は自営業なのですぐに仕事を再開出来たんですが、妻は仕事を辞めて小牧市に転入してきたので、ハローワーク行ったり、市役所に行ったりしていましたが、ハローワークでは「保育園が決まっていなのに仕事探しは出来ません」と言われ、市役所では「仕事が決まっていなのに保育園は探せない」と言われ、すごく苦労しました。その辺りは改善されているんでしょうか。教えてください。

【事務局】

大変耳が痛い話で、正すべきところは正さなければという思いで今のご意見をお聞きしました。

まず、現時点の保育園入園申込みにあたっては、パブリックコメントの回答でもお示ししましたが、保育要件に基づいて申込みをしていただく形になっています。これは、小牧市だけではなく、基本的には全国的に国が示した同じものに基づいておりますので、原則は概ね一緒との認識で結構です。

具体的には、家庭で保育が難しいようなケース、漠然と括るとそういう表現になりますが、父母両方ともが仕事をしている場合で、家で子どもを保育できないケースや、仕事を探している場合であっても、求職中という形で保育要件として設けています。

そうした要件を総合的に判断した指数表の指数による優先順位でいくと、どうしても長時間フルタイムで働いている夫婦共働きのケースと、仕事を探している場合というのは、優先順位の部分で差が出てきます。しかし、その差というのは、園に入りやすい、入りにくいということはあっても、申込みそのものが出来ないとか、仕事が決まってからでないとか駄目だとかということはありませんので、その点をご安心いただければと思います。

【会長】

待機児童については、一応あるようですけれども、限りなくゼロに近づいていると思います。条件はかなり良くなってきていると思います。

ただ、パブリックコメントにもあったように、0～2歳児までの無償化を行うと、待機児童が発生しかねないことは予測出来ますので、今回の質問を市としても留意していただけたらと思います。

また、長く住んでいるからという点数の付け方がないので、要望に応えられないというような回答ではありました。行政としても今後も悩まれることが多いかと思いますが、ぜひ保護者に寄り添った決定をしていただけたらなと思っております。

【鳥居委員】

先ほど会長が言われたように、0歳～2歳というのは預けようとするとなんもお金がかかります。この料金が無料になると、移住者が増えるのは当たり前だと思いますので、意見を提出された方の意見は正しいのかなと私は思っています。

そうした中で、保育園の部屋数などの整備が出来てない、足りないというところと、これから始めようとする政策とがリンクしてないのではないかと。これを回避するために、回答に一行だけ、今後、老朽化した施設を建替えるときに考慮するみたいなことが書いてあるので、私としてはそういう整備を進めてもらえればいいのかと思います。

そうした、政策に対して、きちんと対応していくという計画が「見える化」されると、今回質問された方のような対象者に理解していただけるのかなと思いました。

出来れば、老朽化施設においては、今、すごく治安が悪くなっているのだから、防犯体制とか、防災体制。これをしっかりとした建物にということで、人数だけじゃなく、安心のある施設ということを目指していただきたいなと思います。

施設の建替えについて、今後の方針があるのであれば教えてください。

【事務局】

この子ども・子育て支援事業計画の中ですと、資料3の55ページになります。

保育園の適正配置というところで記載をさせていただいております。まず、中部地区ですと、赤字の部分、大山保育園と第一幼稚園、こちらを統合し、令和9年度の開園を目指して、認定こども園化する計画を進めているところです。

さらに下には、さくら保育園についての記載もしております。さくら保育園については、園舎の老朽化の解消や、保育室不足等の解消というところで、令和9年度以降の建替えを検討しているところです。

その下、西部地区になります。西部地区につきましては、藤島保育園、北里保育園、こちらを令和10年度の開園を目標に民営化を検討するというところで、今、具体的な計画として進めているところです。

さらにその下ですが、三ツ渚北保育園と三ツ渚保育園も同様に施設の老朽化の課題がありますので、統合を検討しています。

また、この計画の関連計画といたしまして、小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針というものがございます。そちらにつきましても、今、中間見直しというところで、施設の建替え計画の検討について記載をしているところです。こちらの計画も、中間見直しの整理作業が終わりましたら、公表されますので、またご案内をさせていただければと思います。

【会長】

急に言われても、急に増やせないところが、保育の難しいところです。ただ、着々と努力はされていると思いますので、その点をご理解いただけたらと思います。パブリックコメントの回答の中で、市の施策や、方針の内容、改革の内容をお知らせいただけたらいいかなと思います。

今回、皆様にご質問いただいたり、ご意見いただいたりした中で、検討すべき課題というのが明確になったと私自身は思っております。この計画を進める中で、今後、市として考えることとこの意識しながら、令和5年度、6年度と、どんどん進めていただけたらなと思います。

【長谷川委員】

計画の中の、量の見込みについて確認です。

例えば、中部地区の量の見込みと確保の内容について、3号認定の1歳～2歳について、令和2年度から令和6年度にかけて増えています。ただ、その後のページにある小学校1年生から6年生、それぞれ各学年の児童数の変化の記載がありますが、こちらはどこも減っているか、横ばいなんです。

幼児は増えていくのに、子どもたちが入学していく小学校では減っているというのは、どこかにねじれがあるのかなと思います。もし分かればご説明ください。

あと、新しい施策として、公私格差の是正も動き出しています。すごく有難いことだなと思いますが、社会福祉法人は、それぞれ地域ごとに公定価格、特に人件費に差があります。学校法人には、そういった差がないので、何とか小牧市で行われるものについて、弾力的な運用ができるといいなと思っています。

【事務局】

量の見込みについて、幼児が増えていくのに、小学校の子どもの数が減っていくとのことでしたが、こちらの数につきましては、小学校の児童数ではなく、児童クラブの入所児童数になります。令和2年度から令和4年度まで、コロナの影響で、児童クラブの利用人数について、これまでずっと増え続けてきていたのが少し減ったり、横ばいということになっています。

保育園の幼児の数の増加につきましては、第2期計画の前段でも記載のとおり、世帯の状況や、女性の労働力上昇というところの影響があるかと思っています。

また、小学校は義務教育というところで、子どもの数が学校に通う人数と近い数字になってくるかと思いますが、保育園については、皆さんが保育園を希望するものではなく、家庭で保育されている方もいるかと思っています。核家族の増加や、女性の労働力、要するに働く方が増え、保育を必要とする方が増えていきます。そうすると、保育園に預ける幼児の数が増えていくことから、実際に子どもの人数自体は横ばいもしくは減少傾向にあるかと思いますが、保育園を利用する子どもの数は上昇する見込みであろうというものになります。

公私格差の補助金につきましては、前回会議でもご質問いただいておりますが、市内にあります保育園、認定こども園、小規模保育事業所を対象とした補助金となります。学校法人というわけではありませんが、幼稚園につきましては、他市の事例等を調査しまして、今後検討していきたいと考えております。

【会長】

公私格差是正について、特に幼稚園は県が関わってくるので、なかなか市だけではとなりますので、難しいのかなと思います。一方、保育園ですと、市で何とか出来ていくのかなと思います。

利用定員に関して、見込みとしては妥当なところかなと私は思っております。待機児童が出ないようにと願うばかりであります。

それでは、概ねこのような形で、事業計画を進めさせていただきたいと思っておりますので、皆様ご了承願います。

それでは、本日の議題はここまでとなっておりますので、進行を事務局にお返ししたいと思います。その前に部長から一言いただいて、終わりたいと思います。

【鍛冶屋部長】

今年は計画の見直しということで、例年より多く会議をさせていただきました。おかげさまをもちまして、私どもがいろいろ考えながら計画に盛り込んだことについて、しっかりと議論をしていただき、計画への反映が出来たと思います。

いろいろな立場から、また、行政と市民の間でも、子育て政策に対するいろいろな意見があると思いますが、私どもはこれからも子どもの最善の利益を考えながら、子どもたちのためにとということで、これからも行政を進めていきたいと思っています。そういう想いを共有しながら皆さんと意見を交換すれば、必ず良い政策が生まれてくると思っています。

一年間大変ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

皆様、本日も慎重なご審議ありがとうございました。

先程、部長の話の中にもございましたが、このこども・子育て会議は今年度5回開催をさせていただきました。委員の皆様には、ご多忙の中、毎回長時間にわたり、会議に出席をいただきまして本当にありがとうございます。来年度も引き続きよろしく願いいたします。

また、来年度より委員の交代をされる方もおみえになるかと思いますが、今後もそれぞれの立場で子育て支援に関わっていかれるかと思っていますので、引き続きご支援賜りますようお願いいたします。

令和5年度からは、本日お認めいただきましたこの計画に則りまして、小牧市のこども・子育て支援施策を進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それではこれをもちまして、令和4年度第5回小牧市こども・子育て会議を閉会とさせていただきます。

ありがとうございました。